

住生活の学習における「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方

岩手県八幡平市立
西根第一中学校副校長
千田 満代
(ちだ みちよ)

1 はじめに

本題材は「A 家族・家庭生活」と「B 衣食住の生活」との関連を図っている。幼児の身体的な特徴や高齢者の身体機能の低下などを理解した上で、家庭内で家族の安全を考えた住生活はどうあればよいか自分たちで課題を設定し、その課題を解決するための計画を立てて実践し、評価・改善する構成とした。なお、この実践は令和3年度の岩手県立総合教育センターのICT活用の研究を参考に、今年度は学習評価に焦点をあてて実践したものである。

2 本題材の「主体的に学習に取り組む態度」

本題材における、学習活動に即して具体化した「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は以下の表のとおりである。

①家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
②家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
③家族の安全を考えた住空間の整え方について工夫し創造し、実践しようとしている。

以降の項目は①～③の評価事例について説明する。

3 課題設定とその解決に向けた取り組み

～主体的に学習に取り組む態度①～

家庭内事故と自然災害における安全な住まい方を学ぶため、実際にあった具体的事例を活用した。

家庭内事故は「STOP! 子どもの事故」「STOP! 高齢者の事故」(東京消防庁)を参考にし、自然災害は近年の地震災害の状況(新聞記事等)を参考に

した。前時までに学習した高齢者と幼児に関する知識を踏まえ、生徒それぞれが自分の家族の実態と現在の住空間を考え、課題を設定した。



(東京消防庁ホームページより)

主体的に学習に取り組む態度①は、前述の表のとおり、「家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。」である。

次の記述例は、学習を振り返る場面で「おおむね満足できる」状況(B)と判断したものである。

記述例①

今までの自分
高齢者の人が、段差につまづくことに気が付いた、特に私の祖母は、めづると思っているのを声をかけて教えるようにしていた。
カーペットなどの敷きものが滑りやすいことは気が付かなかった。

これまでの自分を振り返り、家庭内事故の要因についてさらに知ろうと取り組んでいる。

記述例②

家に帰ると、歩行点検をしてみたら、カーペットの敷きもののイセに、コードにつまづくところもあつた。
足だけではなく、視力の低下もあると母にいわれた。
もっと安全に生活できるように工夫したい。

学習したことに対して、家庭内で調査するなど解決策を粘り強く探ろうとしている。

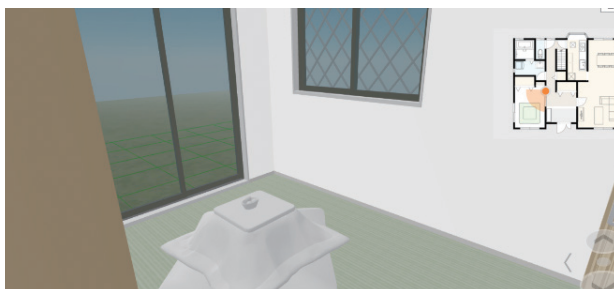
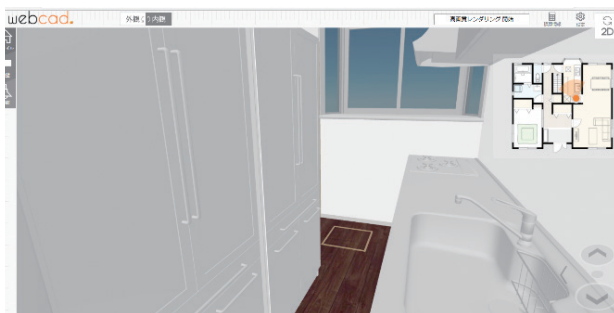
「十分満足できる」状況 (A) と判断する内容は、他の生徒のアドバイスを参考にした取り組みが記述されている場合などである。

「努力を要する」状況 (C) と判断される生徒には、高齢者や幼児の身体の特徴の具体例を示し、安全な住生活と結びつけて指導する。

4 課題解決に向けた活動の振り返りと改善

～主体的に学習に取り組む態度②～

モデル家族の住空間を提示し、高齢者と幼児にとって危険箇所を話し合う活動を行う。その際、教材として、タブレット端末で同一の住空間を探索することができるクラウド型住宅図面作成ツール (WebCAD) を用いた。



(株式会社マリエッタ「マイホームクラウド」より)

グループを4人で構成し、「高齢者」と「幼児」に分け、それぞれの視点で家庭内事故や自然災害の視点で危険箇所を確認した。その後、グループ内で危険箇所を発表し合い、解決策をまとめる学習を行った。



主体的に学習に取り組む態度②は、前述の表のとおり、「家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。」である。学習前に見通しを持ったり、学習後に振り返ったりすることで自らの学習を調整することがポイントとなる。

次の記述例は、改善策をまとめる場面で「おおむね満足できる」状況 (B) と判断したものである。

記述例

住空間の改善策
高齢者の対策は転倒を中心に考えることができたが、幼児はわからなかった。グループの人の意見を聞いて、窓から落ちたものの家具の配置が危険なものにふれはりのための整理・整頓が必要だということがわかったので、いここ来たら危険!! 我が家も改善したい。

学習後の自分を適切に評価し、友達の意見を参考にし、改善策について工夫している。

「十分満足できる」状況 (A) と判断する内容は、他の生徒のアドバイスを参考に具体的な改善策が記述されている場合などである。

「努力を要する」状況 (C) と判断される生徒には、グループの意見を参考にし、考えるよう指導する。

5 工夫し創造し、実践しようとする態度

～主体的に学習に取り組む態度③～

題材のまとめの時間となる。グループ内で検討した内容を学級全体で発表する。生徒は他のグループの発表から新たな気づきを得たり、改善点を検討したりして、自分の家族の住空間の整え方について見直す。そして自分が家族の安全を考えた住まい方についてまとめる。その後「衣生活についての課題と実践」として各自が長期休業中に取り組む。

主体的に学習に取り組む態度③は前述の表のとおり、「家族の安全を考えた住生活の整え方について工夫し創造し、実践しようとしている。」である。

これまでの学習を通して、日常生活において実践しようとする態度が見取れることがポイントである。

下の記述例は、学習を振り返る場面で「おおむね満足できる」状況（B）と判断したものである。

「家族の安全を考えた住生活」について実践できることは？

～これまでの学習をふりかえろう～

家族それぞれの立場で「安全」でありか考えることが大切だと分かった。まず家が実践することは、弟とおじいちゃんといっしょに安全点検をする（わたしの家は危険な場所が多いはず）。その後、家族で家の中の対策を考えてとり組みたいと思っている。

自分の家族の新たな課題を見つけ、次の実践に取り組もうと記述している。

「十分満足できる」状況（A）と判断する内容は、新たな課題を見つけるとともに、改善に向けた意欲だけでなく、これからの活動についても記述されている場合などがある。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒には、他の生徒の記述を参考にしながら考えるよう指導する。